

北里大学病院・北里大学東病院(旧)を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (受付番号/承認番号)	膵癌における術前の内視鏡的胆道ドレナージ術の有用性に関する検証(B21-270)
当院の研究責任者 (所属・職位)	佐野 達哉 (消化器内科学・助教)
他の研究機関および各施設の研究責任者	なし
本研究の概要・背景・目的	<p>膵癌のうち、約8割が膵頭部に2割が膵体尾部に発生しますが、特に膵頭部に発生した膵癌は閉塞性黄疸を来しやすく、胆道感染により全身状態が悪化し、後に予定されている根治的外科手術に悪影響を及ぼすことがあります。そのため、胆汁の排泄経路を確保する目的に内視鏡的胆道ドレナージ術が行われます。ドレナージで使用するステントにはプラスチックステントと金属ステントがありますが、一般的にプラスチックステントのほうが安価で交換が容易であるため、術前の胆道ドレナージにはプラスチックステントが主として用いられていました。しかし近年では切除可能膵癌や切除可能境界膵癌に対して術前治療を行うことにより生存率が改善することが明らかになり、それに伴って手術までの待機時間が長くなることから、金属ステントを留置する症例が増加し、その有効性が報告されています。</p> <p>このような背景をふまえて、本研究では当院でこれまでに実施した膵癌における術前の内視鏡的胆道ドレナージ術の成績を集積し、有用性を検証することを目的としています。</p>
調査データ 該当期間	2015年1月1日から2022年2月28日までの情報を調査対象とします。
対象となる患者さま	2015年1月1日から2021年12月31日までの間に当院で膵癌に対して術前の内視鏡的胆道ドレナージを施行した方。
研究の方法 (使用する試料等)	2015年1月1日から2022年2月28日までの電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。
試料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	他の機関への試料・情報の提供はありません。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	消化器内科研究費。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。利益相反については本学利益相反委員会で審査を受け、適切に管理されます。
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問などがありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p>

ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

所属・職位: 北里大学医学部消化器内科学 助教

担当者: 佐野 達哉(サノ タツヤ)

電話: 042-778-8111

備 考